

# 楽しく美しい

## まなづくり通信

82

### 第14回巨木を語ろう 全国フォーラム開催

#### 巨木に生かされた里づくり

「巨木や鬱蒼と茂る森は、古来、日本人の心の拠り所であった。この深層意識が、農耕村落ごとに神社の背後に森を残し、巨木に注連縄を張らせてきた」

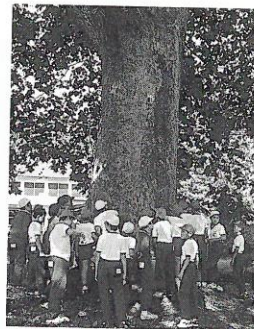
全国巨樹・巨木林の会会長である伊藤秀三長崎大学名誉教授が「巨樹・巨木国際シンポジウム」に寄せた一節です。

里山の趣を残す二戸市でも古来より木は、家を建てる材として、祭りをつかさどるかがり火として、飲み水の源に立つ守り神として生活の営みに欠かせないものでした。飢饉の時にも貴重な食べ物を恵みとしてもたらしてくれたため、大事に守り育てられてきました。

市内には、カツラやイチチョウを中心に多くの巨木が残っており、冒頭の言葉通り、ある木にはほこらがまつられ縄が張られています。

木は、そのものに神霊が宿るとこ

ろとして長い間、信仰の対象であり、畏敬の場でもありました。地域の歴史を見続けて来たものとして、さまざまな物語も託されています。これら木との出会いは、二戸市の歴史と文化を知る手掛かりであり、木が持つ不思議なまでの生命力に触れる機会でもあります。



アメリカズカケノキ  
＝上斗米上野

この秋、二戸市で「第十四回巨木を語ろう全国フォーラム」が開催されます。

これは、環境庁(当時)による「巨樹・巨木林調査」を契機に、身近な自然の代表である巨樹・巨木林を通して、郷土の自然環境の保全と自然に対する認識の高揚を目的に、全国各地の自治体によって引き継がれてきたものです。

昨年の「二戸市宝を生かしたまなづくり条例」制定に続き、市制三周年を迎え、二戸市が新たな第一歩に向けて歩み出す本年、このフォーラムが当地で開催されることは意義深く、改めて二戸市の「宝」である

巨木を通して、自分たちが住む街の良さを感じ取っていただきたいと思っています。

オーブニングセレモニーとして、ほごずの会(土地の方言で「朽ちた木」の意味)の皆さまによる「にのへ里ことば」の紹介があります。今では話す人も少なくなったこの

地方独特の美しい響きを、お聞きいただきたいと思えます。

フォーラムでは、ジャーナリスト・兼高かおるさんの記念講演に続き、レオ・F・バスカーリアー米国作家「葉っぱのフレディ」の朗読が行われます。

この物語は、カエデの木の葉っぱである「フレディ」の一生を通して「いのちの巡る姿」が語られ、「わたしたちはどこから来て、どこへ行くのか」「人はなぜ生きるのか、死とは何か」という人生の命題について、改めて考えさせられます。

作者は「この絵本を、自分の力で『考える』ことをはじめた子どもたちと、子どもの心をもった大人に贈ります」と述べています。

葉っぱが生まれ、成長し、枯れ、土にかえり、次の葉っぱの誕生につながっていく。「いのちは永遠に生きていく」という言葉に凝縮される「いのちの旅」について、この機会にご家族皆さまで、語り合っていたければ幸いです。



県道二戸一戸線＝堀野

## 市内各地で 花がきれいに

住みよい二戸市をつくる市民運動推進協議会(藤原榮一会長)が、環境美化推進事業で六月上旬に市内四十二団体に配布した花の苗が咲き、街をきれいに彩っています。

協議会で用意したサルビア・マリゴールド・アゲラタムなど二万二千本と合わせて、東北電力二戸営業所(村川恒義所長)・市内の五つの郵便局から協賛いただいた各二千本の花々は、初夏から仲秋にかけての風物詩です。